

【PET-CT検査のQ&A】

Q1. PET(ペット)とはなんですか？

PETとはPositron Emission Tomography(ポジトロン・エミッション・トモグラフィ)の略語です。PETはブドウ糖に類似したポジトロン(陽電子)を放出する検査薬を注射し、体内の分布や代謝の様子を体外から検出して画像にする検査装置でがんの検査や脳、心臓の検査にも使われています。

Q2. PET-CT検査に使われる検査薬はどのようなものですか？

PET-CTに使用する検査薬は、ブドウ糖に放射線を発生する物質を引っ付けた薬剤で、FDG(フルオロデオキシグルコース)といい、体内ではほぼブドウ糖と同様の働きをします。この検査薬による重篤な副作用の報告はありません。もし副作用が発生した場合は、担当医師等が適切に対処しますのでご安心下さい。

Q3. すべてのがんがわかりますか？

PET-CT検査でも顕微鏡レベルの小さながんの検出は困難です。腎臓、膀胱、前立腺などの尿路系のがんは生理的に集積が多いため、検出困難です。脳腫瘍、早期の胃がん、原発性肝がんなども苦手としています。がんの性質により数センチのがんでも発見されないことがあることをご理解ください。また、がん以外の炎症部分にも反応しますので、確定診断には他の検査との併用が必要となります。ただし、がんの転移や再発には全身の撮影をするため有効です。

Q4. PET検査は健康保険で受診できますか？

がんの検査のうち保険が適応されるのは、悪性腫瘍(早期胃がんを除き、悪性リンパ腫を含む)で、他の検査・画像診断により病期診断、転移・再発の診断が確定できない患者に使用するという規定があります。主治医の医師とよくご相談のうえ、検査をお受けください。

Q5. 身体への影響はありませんか？

検査薬には微量の放射線が含まれるため、胃のX線検査と同程度以下の被ばくを受けます。しかし、約2時間で半減していき、尿として排泄されていくために、半日でほとんど検出されなくなり体内には残りません。同時に撮影されるCTではX線の被ばくがありますが、体型に合わせて最適化された線量で撮影しており、検査後に影響は残りません。

また管理区域内で待機していただき、周りに影響が出ない状態で帰宅していただきますので、ご安心して検査を受けられてください。